

第1回 レンタルサーバーサービス

見逃しがちなサービス選択のポイント

text: 寺尾 英作

中小企業のITアウトソースを語るうえで欠かせないのがレンタルサーバーだ。企業情報サイトだけでなく、メール、ECサイト、サポート情報の提供など、さまざまな役割を担っている。2004年には低価格化の波が押し寄せたレンタルサーバーだが、同時にサービスの高機能化も着実に進んでいた。サーバーの安定性やセキュリティの充実は当然のこととなり、ECサイトやブログを簡単に開設できるサービスなど、多様な機能が搭載されるようになった。これにより、どのサービスを選ぶかが以前よりもさらに難しくなった。ここでは、レンタルサーバー選びで重要な要素のうち、見逃しがちなものをいくつか挙げて解説する。

転送量制限

「転送量」とは、レンタルサーバーを通じてメールやウェブサイトのデータをインターネットとどれだけやりとりしたかを示す数値だ。ネットワークの利用には費用がかかるため、レンタルサーバーによっては、1か月あたりの転送量を制限していることがある。転送量制限の値はサービスによって異なり、1～50Gバイトと幅広い。制限量を超えてデータの転送が発生した場合、超過量に応じた追加料金が発生したり、サイトへのアクセスを制限されたりする場合がある。

たとえば、1日あたり1000ページビューあるサイトを例に挙げて考えてみよう。1か月あたりの転送量は、文字中心のサイト

(1ページあたり数十Kバイト程度)ならば約1～2Gバイトで済むが、写真が多く使われているショッピングサイトなど(1ページあたり数百Kバイト)では10Gバイト前後となる。

どれぐらいのページビューになるのかとページの作りから必要な転送量を予想しておく必要がある。

また、転送量制限が明示されていない場合や「無制限」とされていても注意が必要だ。転送量が増大しすぎた場合には制限がかけられたり、上位コースへの移行を促されたりする可能性があるからだ。サイトへのアクセス数が増えることが予想される場合は、しっかりと転送量制限が数値で示されているサービスを選ぶか、事前に転送量制限に関する問い合わせをしておくことが重要だ。

請求書・領収書

レンタルサーバーの多くは、オンラインで申し込んでクレジットカードで支払うことができる。手間がかからずに便利なのだが、請求書や領収書を発行していない場合があることに注意が必要だ。

基本的に請求書や領収書は発行しない場合でも、法人契約であれば必要に応じて発行してもらえることが多いようだ。しかし、特に低価格のレンタルサーバーでは、コストを抑えるために一切発行しないところもあるので、事前の確認が必要だ。

ただし、領収書に関しては、銀行の振り込み明細書やクレジットカードの明細書

が税務処理の正規の領収書として使えるため、レンタルサーバー事業者が発行していなくても問題ない。

コントロールパネル

レンタルサーバーで契約ユーザーが直接「使う」のは、「コントロールパネル」と呼ばれるサーバーの管理画面(以下「コンパネ」)である。コンパネは、メールアドレスの作成や転送設定、サイトのアクセス解析などの作業をするためのもので、ほとんどの場合はブラウザでアクセスして使う。

中小企業がITのアウトソースを目的にレンタルサーバーを使うとなると、実際にサーバーを利用するのは技術に明るくないユーザーだろう。コンパネの使い勝手は、業者のサービスメニューやスペックリストには現れにくい重要な要素だ。少し詳しく解説してみよう。

「自社製」と「専用」

コンパネには、事業者がCGIなどでそのサービス専用で作る「自社製ツール」と、一般に配布・販売されている「専用ソフトウェア」がある。おおまかに言うと、「自社製ツール」は初心者でも比較的簡単に使えるように作られていて、「専用ソフトウェア」はより高度な作業までできるようになっている。

ここでは、海外で主流となっていて日本でも最近多く使われるようになってきた「専用ソフトウェア」について、109ページに示した4つのソリューションを取り上

[海外動向]

インフラからサービスへの道を進む 米国のデータセンター市場

text: 清水 武

市場の成熟、そしてアプリケーション重視へのシフト

米国におけるデータセンター市場を概観すると、ドットコムバブルの崩壊以降、一時の華やかなブームは跡形もなくなった一方、全体として市場は成熟の方向に向かっている。新規参入事業者数の増加も落ち着き、逆に M&A が進んで事業者数は今後減少に転じるであろうとも見られている。最近の動きでは、昨年初頭の SAVVIS Communications による Cable & Wireless のホスティング事業買収はその代表格と言えるだろう。かつてはエクソダスのような専業事業者が脚光を浴びていた。しかし、現在市場においてより強い地位を確立しているのは、システムとネットワークを含めた包括的なアウトソーシングの一環としてデータセンターを提供する、IBM や EDS のような IT サービスプロバイダーだ。各社ともサービスメニューの充実は行き尽くした感があり、価格競争の色合いが強くなってきている。

その中でデータセンター事業者として産声を上げた企業が提供するサービスメニューも、必然的に、単なるインフラとしてのサーバーやネットワークの貸し出しから、よりアプリケーション/サービス寄りにシフトしたものになってきている。Apache、MySQL、BEA、Microsoft や Oracle などの定番基盤サーバー製品の運用・メンテナンスは、大手～中規模のデータセンター事業者の定番メニューになりつつあり、People Soft のような基幹系業務ソフトのマネージメントまでメニューにそろえる事業者もある。カスタムメイドのシステムの構築や運用までもメニューに

加わり、もはや単なるデータセンター事業者と言うよりは、包括的な IT アウトソーシング企業だと言ったほうがしっくり来るものもある。

カタログ管理、経理ソフトとの連携、映像技術、金融取引、VoIP ……

データセンター事業を前面に押し出しつつ生き残ってきた大手事業者には、より個人的なサービスを軸に成長してきた事業者が多いようだ。

たとえば、元々ストリーミングビジネスに強いデータセンターとして有名な Globix のメディアサービスを見てみよう。確立されたコンテンツデリバリーネットワークの提供や、映像のエンコーディングのようなテクノロジーサービスのみならず、テレビカメラ、音声、照明といった設備に専門の技術者までを含めた映像制作サービスの提供までもがメニューの中に加わっている。

Intel や Cable & Wireless のホスティング事業買収で一躍有名になった SAVVIS Communications は、金融情報企業からのスピンアウトという出自のとおり、金融機関とのネットワーク接続に強い特徴がある。ここでは、マーケットデータの配信や、NY 証券取引所などの各国市場とのアクセスと取引実行のためのゲートウェイのような、金融系に特化したアプリケーションのサービスを提供している。また、SIP ベースの VoIP 機能を持つ PBX アプリケーションといったボイスアプリケーションも提供している。

価格を売りにしたローエンドのレンタルサーバーを提供する事業者も、CMS 機能やクレジット決済機能といった単体機能だ

けでなく、「オンラインショップ構築統合パッケージ」と呼べるような機能を提供してきている。OSIRIS Communications は、月額 8.95 ドルからの価格帯でレンタルサーバーを提供しているが、提供する機能を見ると、販売ページ制作やショッピングカートなどの基本ショップ機能だけでなく、カタログ管理や Quickbooks などの経理ソフトとの連携などの機能までそろえたアプリケーションを提供している。中小企業の顧客には、Quickbooks のような中小企業向け経理ソフトとの連携はありがたいはずだ。また、クレジット決済のような単体機能についても高度化が進み、配送先とクレジット請求先の郵便番号比較や、カード裏面のサイン記入欄にある番号の照合といったセキュリティ面の強化がなされるようになってきている。

業者の選定では

「何を求めるか」を明確に

多種多様なサービスを提供するさまざまなベンダーが混在する状況で、利用企業側が業者を選ぶ際のキーが「何をしたいのか」になっているのは間違いない。

特に運用のアウトソースは、運用者の再教育、物理的な移転、組織体制の再構築といったスイッチングコストが高く、その性格から契約後は長期間の付き合いになる。何を事業者に期待し、何を基準に選定するか、といった点を明確にして業者を選ぶことが成功の鍵である。

しかし、これを実行するととなると、利用企業側でも十分な体制を組めないなどの事情があつてなかなか難しいのは、日米とも共通する課題のようだ。

げ、レンタルサーバーで行う作業について、それぞれの特徴を見てみる。

メール関連の作業

メールアドレスの作成はだれもが行う作業だ。メールアドレスのユーザー作成はどのソフトウェアも簡単にできる作業だが、メールアドレスの別名であるエイリアスの管理に関しては、ツールによって使い勝手に差が出る。

Turbo Linux Appliance Server(以降「TLAS」、ティーラス)とPleskについては、ユーザーの管理とエイリアスの管理がうまく合体しているため使いやすい。中でもPleskはメールアドレスとエイリアスが一面で確認できるため、メールアドレスが増えたときには便利だ。

メール関連ではウイルス対策も重要な機能だ。TLASとPleskでは、商用のウイルス対策ソフトを追加してメール経由のウイルスを防げる。また、もう1つ注目すべき機能として、迷惑メール対策がある。HDEコントローラーとPleskは、迷惑メール送信の踏み台に使われているサーバーからの受信を拒否するRBL(リアルタイムブラックホール)に対応していることも特徴だ。

ウェブ関連の作業

アクセス解析は企業のウェブサイト運用では必須の機能だ。Pleskは、有名なオープンソースのアクセス解析ツールのwebalizer(ウェブライザー)を利用でき、12か月分の結果を保存できる。HDEコントローラーには、フリーのアクセス解析ツールAnalog(アナログ)を初心者にも使いやすいように独自にカスタマイズしたものが組み込まれているが、凝った解析ができないのが弱点だ。残念ながらTLASには標準でアクセス解析機能は用意されていない。

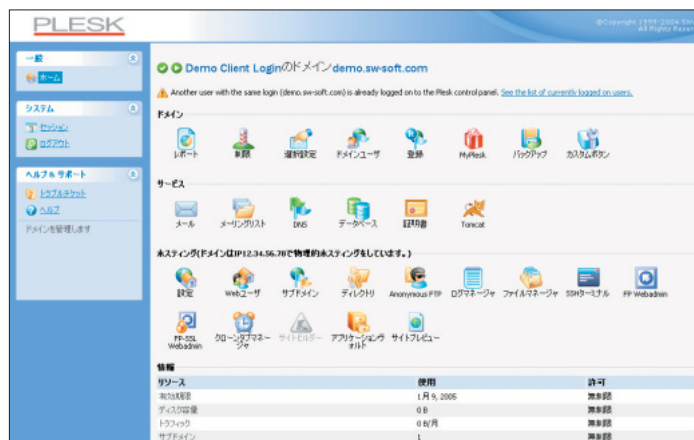
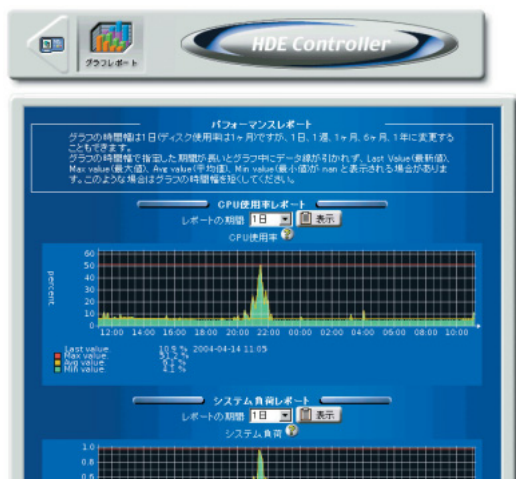
レンタルサーバーにおけるコントロールパネルの役割

「専用ソフトウェア」のコンパネには、レンタルサーバーを乗り換えた場合にも同じツールが使えるという大きな利点がある。レンタルサーバー業者を変更しても、同じコンパネを使っていれば、別のコンパネの使い方を始めから覚え直す必要がない。さらに、コンパネに設定のバックアップ機能があれば、旧環境の設定を新環境にインポートするだけで設定の移行が完了することもある。これは大きなメリットだ。

欧米のレンタルサーバーではPleskやEnsimのようなコンパネが主流になっている。しかし、日本ではまだまだ事業者の自社製のコンパネが多い。日本のユーザーの特徴として、目的を実現する手段としてレンタルサーバーを使うことが多いため、コンパネに多くの機能を求めない傾向があるからだろう。逆に機能が少なくわかりやすい画面を求める傾向もあるため、日本製のコンパネツールはよりシンプルなものが多い傾向にあるようだ。

ただし、機能を絞った自社製コンパネが必ずしも使いやすいとは限らないことに注意してほしい。技術的な知識のない一般ユーザーでも悩まずに使えるインターフェイスを作れる事業者は今後も自社製コンパネを提供し続けるだろうが、全体としては、今後は日本でも専用ソフトウェアによるコンパネが増えてくるのは間違いないだろう。

長期的には、EC機能やVPS(仮想専用サーバー)などのソリューションがコンパネに組み込まれて実用的になると考えられる。さらにアクセス解析などのサイト管理機能が充実すれば、単なる管理ツールとしてではなく、サイトの価値をより高めるツールとして活用できるだろう。



専用ソフトウェアのコンパネは、グラフィカルなものが多い。HDEコントローラーではサーバーの負荷などがグラフで表示される(左図)、Pleskの管理画面はまるでウィンドウズXPのような見た目だ(右図)。

代表的なコントロールパネルの機能比較

	コバルト後継 / Turbo Linux Appliance Server 1.0	HDE Controller 3.5 ISP Edition	Plesk 7 Reloaded	webmin
開発主体	ターボリナックス株式会社	株式会社ホライズン・デジタル・エンタープライズ	SWsoft Inc.(米国)	webmin (日本Webminコーザ会)
	http://www.turbolinux.co.jp/	http://www.hde.co.jp/	http://www.sw-soft.com/jp/	http://jp.webmin.com/
概要	サン・マイクロシステムズが販売していたコバルトの後継ソリューションとして注目されているアップライアンスサーバー。販売は携帯のプロサイドやムービットなどから。コバルト後継製品としては、他にクラスキャットが提供しているClassCat Cuteなどがある。	国産のコンプネとして広いシェアを持つ。3.0よりOSのアップデート機能をサポートした。ノートレーニングで利用を始められることを前提に開発されているため、ヘルプなどはすべて画面上から参照できるなど使い勝手に配慮されている。	世界中で高いシェアを持つコンパネで、日本語にも対応している。非常に多機能で、データベースを始め多くの機能に対応している。画面もウィンドウズXPのようで非常に見やすい。ウィンドウズサーバーにも対応している。	中級・上級者向けのコンパネ。webminがサーバー管理者向け、userminがドメイン管理者向けとメールユーザー向けの管理を受け持つ。オープンソースのため無償で利用できるが、OSを理解していないと使いづらいだろう。

メール関連

機能	コバルト後継 / Turbo Linux Appliance Server 1.0	HDE Controller 3.5 ISP Edition	Plesk 7 Reloaded	webmin
メールアドレスの管理	設定もシンプルで簡単。別のドメインで同じ名前のユーザーが作れない。エイリアスで対応。	ユーザー数が多くなると動作が重くなる。ユーザーとエイリアスの管理が別メニューなのでわかりにくい。	メールアドレスとエイリアスが一緒に表示される。機能が多いため、初心者には不要なものも含まれる。	複数ドメインを使う場合、パッチャドメイン管理は別途あるのが煩雑。エイリアスの管理もわかりにくい。
ウイルスチェック	ムービットやギデオンなどの対策製品が対応。	HDE Anti-Virusが対応。リアルタイムチェックにはゲートウェイ版が別途必要。	Dr. Webがアドオンとして提供される。	OSに対応した製品を利用するだけ。特に機能はない。
迷惑メールフィルター	対応していないが、近日にムービットより対策ツールが発売される予定。	サーバーレベルではブラックリストとRBLに対応している。ユーザーレベルでは特に機能なし。	ブラック / ホワイトリスト、RBL、SpamAssassinに対応。別途ライセンスが必要。	SpamAssassinに対応している。

ウェブ関連

機能	コバルト後継 / Turbo Linux Appliance Server 1.0	HDE Controller 3.5 ISP Edition	Plesk 7 Reloaded	webmin
アクセス解析	対応していない。	シンプルなインターフェイスのanalog改造版が利用可能。ログのダウンロードが可能。凝った解析はできない。	webalizerに対応。結果は12か月間保存される。ログのダウンロードが可能。絞り込みができない。	analogやwebalizerなどをインストールすれば管理が可能。
バックアップ	特に機能はない。	サイト全体などバックアップが可能。スケジュールも可能。	サイト全体などバックアップが可能。スケジュールも可能。	特に機能はない。
CGIのインストール	ウェブアーカイブリスト(.war/Java)に対応	対応していない。	アプリケーションヴォルトというツールが提供されている。	対応していない。

サーバー管理

機能	コバルト後継 / Turbo Linux Appliance Server 1.0	HDE Controller 3.5 ISP Edition	Plesk 7 Reloaded	webmin
利用状況	全体が一覧できる。個別の詳細はわからない。	メールはメール、ウェブはウェブでしかわからず、全体が把握しにくい。	全体が一覧できる。個別の詳細はわからない。	メールはメール、ウェブはウェブでしかわからず、全体が把握しにくい。

サービス事業者別コントロールパネル利用状況

事業者	標準で利用できるコントロールパネル	その他
Power Platform Hosting Service(NTTコミュニケーションズ) http://www.ntt.com/ppf/ P.110へ	自社製ツール、webmin	特になし
AT-LINK 専用サーバ・サービス http://www.at-link.ad.jp/ P.112へ	自社製ツール	ClassCat Cute、HDE コントローラー、Plesk、webminも利用可
BIGLOBE オフィスサービス(NEC) http://office.biglobe.ne.jp/ P.113へ	自社製ツール	特になし
Domain Keeper(ハイパーボックス) http://www.domain-keeper.net/ P.113へ	CobaltRaQ 550+ 自作ツール(専用サーバー) TLAS(共用サーバー)	特になし
First Server(ファースト・サーバ) http://www.fsv.jp/ P.114へ	自社製ツール「コンフィグレータ」	特になし
WADAX(ワダックス) http://www.wadax.ne.jp/ P.115へ	webmin(専用サーバー) 自社製ツール(共用サーバー)	HDE コントローラー、Pleskも利用可
レンサバ本舗.com(GMO) http://www.rensaba.com/ P.115へ	ClassCat Cute(スマートパッケージ) 自社製ツール「iManager」(準専用サーバー)	Red Hat Linuxの専用サーバーではHDE コントローラーを標準で利用可
ビジネスぶらら(ぶららネットワークス) http://biz.plala.or.jp/ P.116へ	自社製ツール	特になし

高品質・高信頼性に加えて固定費 3 分の 1 を実現

Power Platform Hosting Service

NTT コミュニケーションズ

(URL) <http://www.ntt.com/ppf/>

NTT コミュニケーションズの「パワープラットフォームホスティングサービス」は、品質やセキュリティに対する要求に十分配慮しながらも、コスト削減が大命題となっている現代の企業サイトニーズを満たすべく開発された小・中堅企業向けの専用型レンタルサーバーサービスだ。低価格実現の背景にはいくつもの企業努力がある。

サービス品質保証制度を提供 復旧時間などを数値で明示

「パワープラットフォームホスティングサービス」(以下 PPF)は、高品質と低価格を高い次元で両立させている。

このサービスには3つの大きな特徴がある。そのひとつは「高品質」であるという点だ。PPFは、NTT コミュニケーションズの100パーセント出資子会社であるVerio社の専用型ホスティングサービスを、NTT コミュニケーションズのブランドとして提供しているものだ。Verio社は世界170か国50万以上のユーザーにホスティングサービスを提供する世界的な通信事業者であり、インターネットでは最

上位に位置する「Tier1」と呼ばれる基幹ネットワークに直結。高速で快適なインターネット環境を提供している。

PPFでは、その信頼性の高さを裏付けるようにSLA(サービス品質保証制度)を数値で明確化している。「ハードウェアやOSにトラブルを発見してから120分以内に修復する」というものだ。これについて、「復旧までの時間、伝送遅延、パケットロスなどの規定値を示して、それを逸脱した場合の返金まで規約に明記するサービスは珍しいのでは」と、NTT コミュニケーションズ株式会社 IT マネジメントサービス事業部 PowerPlatform PT 担当部長の福岡弘高氏は胸を張る。そ

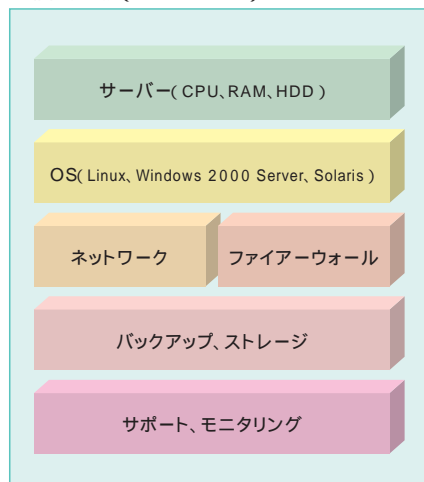


れだけ運用上の品質には自信があるという意味だろう。

540種のメニューからの選択で 細かなニーズにも対応可能

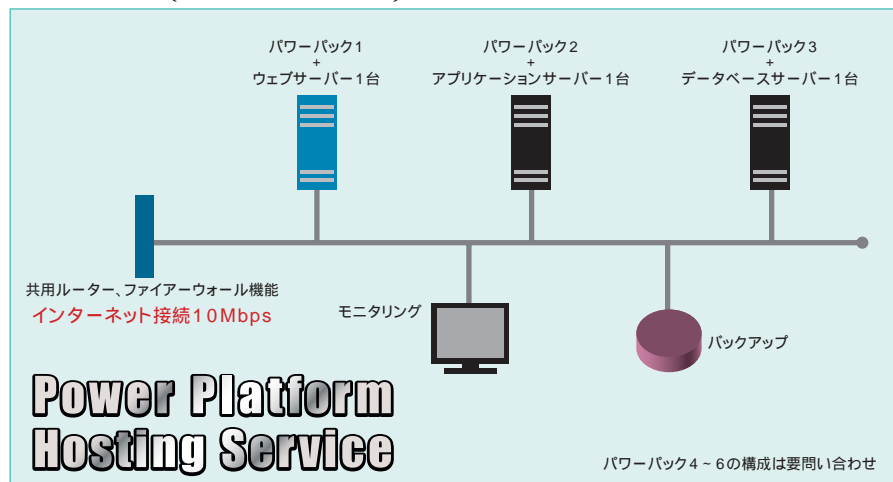
システム設計の「自由度」にも注目したい。サーバーCPUのクロック周波数からはじまり、メモリー、ハードディスク容量、専用ファイアーウォールの設置、バックアップ頻度、プロセスやアクセスログの監視など、「個別選択型」の項目数は540種類にも及び、サイトの規模やニーズに合致したシステムを構築できる。また、それらの中から事業規模に合わせた項目をパッケージ化した6種類の「パワーパック

個別選択(モジュラー)型



サーバーCPUのクロック、メモリー、ハードディスク、バックアップ頻度、プロセスの監視など540種類もの項目を組み合わせて最適なシステムを構築できる「個別選択型」メニューも用意する。

パッケージ型(パワーパック1~6)



サーバーのハードウェア、セキュリティ対策、保守などのメニュー項目を、サイトの規模や用途、予算ごとに組み合わせてパッケージ化した6種類の「パワーパック1~6」は、リーズナブルな価格設定なうえに短期間で導入が可能だ。

1～6」も設定されており、短期間でしかも低価格に構築が可能だ。これらメニューは運用開始後の追加や拡張にも容易に対応できるため、「小規模でスタートしてビジネスの拡大に合わせて増強するユーザーも多くいる」(福岡氏)そうだ。

スペックを上げつつも 固定費 3分の1 減も可能に

いくら高品質で自由度に優れていても料金がなくては魅力も半減する。だが、PPFは、他社の同スペックのサービスと比較しても驚くほどの低価格を実現させている。たとえば、オーディオ販売の老舗企業「ハイファイ堂」では「他社のハウジングサービスからの乗り換えで品質とスペックを上げつつ月額固定費を約3分の1に抑えることに成功した」(NTTコミュニケーションズ株式会社 IT マネジメントサービス事業部 PowerPlatform PT 山口吾郎氏)という。自社サーバーやハウジングを利用していたユーザーなら、従来とのコスト比で4分の1から2分の1に抑えられた例は数多い。

また、近年その重要性が増しているセキュリティ対策も、PPFなら専用ファイアウォールやIDS、VPNなどを選択して利用できる。このため、セキュリティ対策コストについては、「ASP形式のサービス提供でセキュリティを重視する株式会社プロスの場合、要件を満たしつつも他社の半額で導入できた」(山口

月額料金

	月額料金
個別選択型	46,620円～
パワーバック 1	122,220円～
パワーバック 2	234,990円～
パワーバック 3	306,810円～

パワーバックの構成は左図参照
ハードウェアの性能の向上により料金が変わる場合がある
別途、初期費用が必要
短期利用価格、パートナー向け卸価格は個別に問い合わせのこと



「自動化された運用と大量仕入れ・大量販売が低価格の理由」「1ユーザーに10Mbpsの帯域を割り当ててこの料金で提供できるのは通信事業者だから」と語るITマネジメントサービス事業部 PowerPlatform PT 福岡弘高担当部長(左)と山口吾郎氏(右)。

氏)例もある。なお、PPFユーザーは、現在100パーセントがファイアウォールを契約しているという。

キャンペーンサイト構築に最適 1か月契約の短期利用制度

キャンペーンや懸賞サイトのような短期的かつ緊急のサイト構築に対応した「オンデマンド・ホスティング」メニューも用意。専用サーバーを1か月単位で契約できるサービスで、「約1週間でサーバーを提供した」(山口氏)例もあるという。コストの面でも「同スペックの標準メニューと比較して約1.5倍程度の料金で利用可

能」(山口氏)とのことなので、突発的なサイト構築という厳しい条件にも安心して低価格なサービスを受けられる。

また、NTTコミュニケーションズではSIやコンサルティング会社をビジネスパートナーとして多く抱えているため、サーバーの管理・運用のノウハウを持たないユーザーでもまったく問題はない。サーバー構築から保守、運用まで、NTTコミュニケーションズによる一元管理が可能だ。「ビジネスパートナーは随時募集しており、社外のパートナーと協力して、今後も常にユーザーに最適なサービスを提供していきたい」(福岡氏)と語る。

事例紹介

事例詳細(URL) <http://www.ntt.com/ppf/case.html>

ハイファイ堂

早くからインターネットをビジネスに活用したオーディオ販売会社の老舗企業。1週間に240万ページビューのアクセスがある。他社ハウジングサービスからの乗り換えで、品質やスペックが向上したにもかかわらず月額コストを3分の1に減らした。

株式会社プロス

飲食店向け業務管理システムのASPサービスを展開。自社でのサーバー構築からホスティングサービスへの移行を検討したところ、PPFは専用ファイアウォールなどのセキュリティ要件を満たしつつ他社の半額で利用できることからPPF導入を決定した。

問い合わせ先



NTTコミュニケーションズ株式会社
ITマネジメントサービス事業部
パワープラットフォームプロジェクトチーム
powerplatform@ntt.com (URL) <http://www.ntt.com/ppf/>

豊富なメニューと多彩なサーバー運用オプションを用意

AT-LINK 専用サーバ・サービス

(URL) <http://www.at-link.ad.jp/>

AT-LINK 専用サーバ・サービス(at+link)は、豊富なメニューと保守・運用面の多彩な定型オプションにより、サーバー運用のノウハウを持たないユーザーが安心してIT資源をアウトソースできるレンタルサーバーサービスとして、5000台の稼働サーバーと多様な企業ユーザーを有している。

低料金と豊富なメニューで 企業のアウトソースに応える

at+linkは、業界トップクラスの低料金、豊富なメニュー、手厚いサポートを特徴とするレンタルサーバーサービスだ。このためユーザーには、サーバーの管理・運用に関するノウハウを持たない中堅以下の企業も多数含まれており、サービス

開始から約8年、サーバー管理者の熱い信頼を得て現在も確実にユーザー数を増やしている。

無駄なコストを極限まで切り詰めて提供する専用サーバーは、月額1万9,950円(2台目以降は1万4,700円)からと低価格を実現。また、サーバーマシン、OS、回線容量、セキュリティ対策、各種オプ



ションなど、ユーザーの予算やニーズに応えるべくきめ細かく用意されている豊富なメニューもat+linkのウリだ。いくら安価でもサポート体制が貧弱では日々の管理・運用面で不安が残るが、at+linkでは24時間365日の柔軟かつ手厚いサポート体制を構築して、ユーザーの信頼を勝ち得ている。

運用・保守面の定型オプションや 多様なセキュリティ対策メニュー

at+linkでは、企業のIT資源のアウトソースに対応すべく、ユーザーの追加やメールの転送設定などの初歩的なものから、OSやドメイン関連の設定といった運用に関するもの、アプリケーションのインストールにいたるまで、あらゆる管理・保守作業がメニュー化(料金を個別に明示)されているため、サーバー運用の専門知識を持たないユーザーでも安心して利用できる。

またat+linkは、4月の個人情報保護法の全面施行を控えて関心が高まっているセキュリティ対策メニューにも力を入れており、これを利用すれば、自社サーバーを構築してセキュリティ対策を独自に施すよりも、安価な予算でより高度な対応が可能となることは確実だ。

主なセキュリティ対策オプション

Red Hatの無償サポート	Red Hat Linux 7.3/8.0/9.0においてセキュリティホールが見つかった場合は、無償でパッチ当てサービスを受けられる(2006年末まで)
セキュリティレベル	「TCP Wrapper」の利用から「専用ファイアウォール」を設置するものまで、ユーザーは運用形態、技術スキル、コストなどを見ながら4段階のアクセス制御レベルを選ぶことができる。SSL-VPNによるサーバー管理も簡便かつ効果的な選択だ
ウイルスチェッカー	共用ゲートウェイを使うものから専用のものまで、ユーザーのメール送受信数やコストなどに応じて2種類のコースが用意されている。アカウント無制限のアプライアンスの提供もある
ファイル改ざん通知	「Tripwire」を導入し、コンテンツの改ざんが行われた場合にメールで通知するサービス。コンテンツの自動復元機能もある
不正侵入検知	サーバーに到達するパケットを監視するサービス。登録されている侵入パターンに基づき不正と判断されるパケットを検知した場合にアラートメールが送信される

定型オプション業務の料金例

種類	作業アイテム	作業内容	作業料金
OS関連	サーバー再設定料	サーバーの再設定	31,500円
	OSのバージョンアップ		31,500円~
ドメイン関連	ドメインに関するマシンの再設定	ドメイン名の差し替え、IPからドメイン、ドメインからサブドメインへの変更など	15,750円
アプリケーション関連	サーバー管理ツール(スタンダード)	AnalogとMRTGを追加	21,000円
	PostgreSQL + PHP + Apache	PostgreSQLおよびPHPのインストール、Apacheの再構築(PHPは国際版:日本語パッチ済み)	21,000円
	サイボウズOffice	60日間無償ダウンロード版のインストール	12,600円
	ORACLE	パッケージ費用は含まない	31,500円

キャンペーンマシンの料金

名称	CPU	メモリー	HDD	初期費用	月間利用料
リフレッシュ!	Pentium III 1GHz	512MB	120GB	26,250円	東京NOC利用の場合: 19,950円
スタンダードパッケージ	Celeron 2.4GHz Northwood	512MB	40GB	52,500円	
ターボパッケージ / 512MBモデル	Celeron 2.8GHz Northwood	512MB	120GB	78,750円	
ターボパッケージ / 1GBモデル	Celeron 2.8GHz Northwood	1GB	120GB	89,250円	
モンスター 800 3GHz / 1GBモデル	Pentium 4 3GHz Hyper-Threading FSB800	1GB	120GB	110,250円	富山NOC利用の場合: 30,450円
モンスター 800 3GHz / 2GBモデル	Pentium 4 3GHz Hyper-Threading FSB800	2GB	120GB	166,950円	
モンスター 800 3.2GHz / 1GBモデル	Pentium 4 3.2GHz Hyper-Threading FSB800	1GB	120GB	119,700円	帯域保証サービス: 23,100円
モンスター 800 3.2GHz / 2GBモデル	Pentium 4 3.2GHz Hyper-Threading FSB800	2GB	120GB	176,400円	

帯域保証回線サービスは回線利用料が別途必要

問い合わせ先
AT-LINK 専用サーバ・サービス
 TEL 03-5785-0555
 (営業日 9:30-23:00・休業日 0:00-24:00)
 pr-info@at-link.ad.jp

インターネット接続込みで利用可能なホスティングサービス BIGLOBE オフィスサービス

NEC

(URL) <http://office.biglobe.ne.jp/im/>

「BIGLOBE オフィスサービス」は、インターネット接続とホスティングサービスを一体化した企業向けサービス。メールが最大1000ユーザーまで利用できるなど、拡張性の高さが魅力だ。

安全・安心のための機能は 標準でサポート

企業にとって個人情報の保護やウイルス対策は重要な課題だ。BIGLOBE オフィスサービスでは、メールのウイルスチェックと盗聴防止のPOP/SMTP over SSL 及びメールのフィルタリングを基本料金内で利用でき、スパム対策も万全だ。

オフィスサービスでは、管理者IDを取得することで、管理者が自由にウェブホスティングやセキュリティーサービスの購入/解約を行えるほか、利用者IDの登

録やサービス利用制限の設定なども可能だ。必要なときに必要な分だけすばやく拡張でき、コストを最小限に抑えられる。

プロバイダーならではの 一括請求で事務負担を軽減

メールホスティングなどの基本的な機能以外はオプションとして単品で提供される。たとえば、サイト作成支援、アクセスログ解析、バックアップ機能などで、必要なものだけを組み合わせることでコストを削減できる。



また、「帝国データバンク企業情報」などのビジネスデータ提供サービスもオプションで用意。インターネット接続とホスティングサービスに加えてビジネスデータと、これらの請求をすべてBIGLOBEが一括で行うため、それにかかる事務負担を軽減できるのは大きなメリットだ。

問い合わせ先

BIGLOBE 法人コンタクトセンター
TEL 0120-37-5644 (通話料無料)
(9:00 - 12:00 13:00 - 17:00)
土日祝祭日、NEC 所定休日を除く)

多重バックアップや運用コンサルティング対応サーバー Domain Keeper

ハイパーボックス

(URL) <http://www.domain-keeper.net/>

「Domain Keeper」は、強固なセキュリティー対策機能、多重バックアップ、運用コンサルティング付きサポートなど、より高いレベルの要求を満たすBPOに最適なレンタルサーバープランを用意している。

独自ドメイン SSL 認証や 多重バックアップを用意

レンタルサーバーを利用するユーザーにとって、やはりセキュリティー対策は心配だろう。Domain Keeperの共用レンタルサーバーの「ビジネス」「ストアマネージャ」プランでは、暗号化128bit長の独自ドメイン SSL 認証に加え、メールの暗号化(POP over SSL)やメールのウイルスチェックに標準で対応する。

また、共用サーバー全プラン共通で圧縮ファイル形式でのバックアップが可能な

ほか、共用サーバー及び専用サーバーの「bluebox Hosting Service」プランなどでは、オプションでミラーリングやNASサーバーへのバックアップも利用できるようになっている。

負荷監視や運用コンサルティングを行う 上位保守サービス

通常、自由度の高い専用サーバーは、ある程度自社でメンテナンスをする必要が出てくる。しかし、Domain Keeperの専用サーバーサービスには、OSのセ



キュリティーパッチの更新や負荷監視、さらにサーバー運用の簡易コンサルティングまで行うオプションの上位保守サービスが用意されている。電源のON/OFFでは解決できない複雑な問題にも即座に対応するため、専任のサーバー管理者を設けられない場合におすすめだ。

問い合わせ先

株式会社ハイパーボックス
TEL 03-5537-6080
(24時間受付)
support@domain-keeper.net

メンテナンスフリーで手軽に使える専有サーバー

First Server

ファーストサーバ

(URL) <http://www.fsv.jp/>

「First Server」は、専用型レンタルサーバーを手軽に導入できる「専有サーバー」を用意。主要な機能はすべて設定済みで、セキュリティ対策にも頭を悩ます必要はない。また、豊富なオプションにも注目だ。

共用サーバーと同じ感覚で 手軽に使える専用サーバー

1台のサーバーを複数ユーザーで分け合う共用サーバーは運用状況によってレスポンスが低下する恐れがある。専用サーバーならパフォーマンスが得られるものの、運用・管理に高いスキルを求められる。First Serverの「専有サーバー」は専用サーバーでありながら共用サーバー並みの手軽さで導入できるサービスだ。

メールやウェブ、FTPなどの主要機能

はすべてインストール済み。各機能の設定はブラウザの管理者画面から行えるため、運用・管理の専門知識がなくても利用できる。また、セキュリティ対策も万全で、パッチの適用やメールサーバーの不正利用対策はすべてFirst Serverが受け持ってくれるので安心だ。

オプションサービスとして、デジタル証明書取得代行やサイボウズOfficeのインストールも提供し、幅広い用途にサーバーを活用可能だ。この専有サーバーは月額4万1,790円(14GB)で使用できる。



メール無制限でグループウェアも 利用可能な「ビジネス・シリーズ」

共用サーバーでは、デジタル証明書やサイボウズOffice、データベースなどを手軽に利用できる「ビジネス・シリーズ」を用意。上位コースはメールアドレス数が無制限と使い勝手のよさが魅力だ。

問い合わせ先

ファーストサーバ株式会社
インフォメーションセンター
TEL 0120-414-538
(平日 9:00 ~ 17:00)
info@fsv.jp

インターネット VPN 並みの価格で IP-VPN を実現

SuperEBN セキュア・インターネット VPN

NTTPC コミュニケーションズ

(URL) <http://www.nttpc.co.jp/service/vpn/mesh/>

「SuperEBN セキュア・インターネット VPN」は、インターネット VPN 並みの低価格で専用線と同等の信頼性、安定性を実現した IP-VPN サービスだ。社内担当者の負担を軽減する一括手配、保守、請求の一元対応も見逃せない。

フレックスアクセスサービス利用の セキュアな IP-VPN サービス

インターネット VPN はコストや速度の面で優れているものの、インターネット回線を経由して社内のデータをやり取りするのは、専用線などと比べると信頼性や安定性の面で不安もある。SuperEBN セキュア・インターネット VPN はこうしたインターネット VPN の不安を、フレックス網(地域 IP 網)とビジネス専用 IP ネットワークを組み合わせることで解消したサービスだ。

フレックスアクセスサービスの活用によりインターネット VPN 並みの低価格を、独自技術で組んだ冗長構成により専用線並みの安定性を実現している。

申し込みも保守も請求書も すべて一元的に対応

SuperEBN セキュア・インターネット VPN のもうひとつの魅力が事務担当者の負担の少ないアウトソーシング型サービスである点だ。サービス利用に必要な通信事業者や機器業者への申し込み・手配



はまとめて NTTPC コミュニケーションズが受け持ち、保守の窓口も一元化されているため、担当者が個別に対応する必要はない。また、全国各地に拠点がある企業でも、拠点ごとの明細付きで、一括で請求書を受け取れるため、事務担当者が地域ごとに発生する NTT の請求書の前に明細の作成に頭を悩ますこともない。

問い合わせ先

株式会社 NTTPC コミュニケーションズ
TEL 03-5212-1380
superebn@nttpc.co.jp

電話サポートも好評な月 2 万円台で使える専用サーバー

WADAX

ワダックス

(URL) <http://www.wadax.ne.jp/>

専用サーバーの利点は理解しつつも、運用コストの高さから導入をためらっていた。そんなユーザーに WADAX のサービスはぴったりだ。サーバー運用の基本的なスキルがあれば、低価格で強力な専用サーバーを利用できる。

わずかな運用コストで 専用サーバーを利用できる

WADAX の専用サーバーは月額 2 万円台から。構成によっては容量 100GB 以上のハードディスクが装備されたサーバーが低コストで利用できる。サーバーはケーブル・アンド・ワイヤレス IDC のデータセンター内に設置されるため、停電や災害への対策も万全。16Gbps 以上の高速なバックボーンでレスポンスのよさを期待できるほか、必要に応じて帯域保証サービスも受けられる。

また、平日は 9 時から 22 時、土日祝は 9 時から 18 時で、年末年始も休みなく受け付ける電話サポートも好評だ。さらに、有償ではあるものの、サーバーの設定やセキュリティパッチのインストール、デジタル証明書取得なども代行するため、専門的な知識がなくても問題はない。

共用サーバーであっても機能充実 データの安全性も高い

共用サーバー「エグゼクティブサービス」はウェブが 600MB、メールは 400MB



と他社の専用サーバー並みの容量だ。専用 SSL 認証やショッピングカート、カード決済機能などで、オンラインショップも開設可能。また、RAID によるハードディスクのミラーリングのほか、定期的に NAS サーバーと DAT テープヘータをバックアップ。データ復旧サービスもあり、重要なデータも安心して任せられる。

問い合わせ先

株式会社ワダックス

TEL 0120-963-388

(平日 9:00 ~ 22:00 土日祝 9:00 ~ 18:00)

手軽さに加えて高機能と拡張性を兼ね備えた VPS

レンサバ本舗.com

グローバルメディアオンライン(GMO)

(URL) <http://www.rensaba.com/>

準専用サーバー (VPS) は共用サーバーの手軽さと専用サーバーの拡張性を兼ね備えた理想的なサービスだ。専用サーバー並みの自由な運用が可能でありながら、セキュリティ対策やバックアップなどは標準で対応する。

共用サーバーでありながらも 自由な運用が可能な VPS

GMO は 12 万社の導入実績を持つレンタルサーバーの大手であり、共用サーバーから専用サーバーまで幅広いラインナップを用意。なかでも注目したいのが「VPS」だ。共用サーバーでありながらユーザーには管理者権限が与えられるほか、複数ドメイン名での運用も可能。月額 1 万 8,900 円 (1.25GB) からという低コストで専用サーバーと同等の拡張性が手に入る。VPS への接続速度を重視す

るユーザーには、80Gbps のバックボーンを備えた国内データセンター使用プランも用意されている。さらにセキュリティ対策やバックアップはすべて GMO が行うため、面倒な管理作業は必要ない。

専用サーバーを身近にする スマートパッケージ

オンラインショップやデータベース活用などで専用サーバーを使いたくても運用面に不安が残る場合には「スマートパッケージ」がおすすだ。製造中止となっ



た Sun Cobalt の後継の入門パッケージで、Cobalt と同じインターフェイスの管理ツールで運用できる。オプションでセキュリティパッチやソフトウェアのインストール、バックアップなどを代行するほか、サイボウズ Office パッケージも用意。高いスキルがなくても安心して専用サーバーを運用できる態勢を完備している。

問い合わせ先

グローバルメディアオンライン株式会社

TEL 0120-0510-93

(平日 10:00 ~ 19:00)

中小企業のIT化をさまざまな角度で総合的に支援

ビジネスぷらら

ぷららネットワークス

(URL) <http://biz.plala.or.jp/>



「ぷらら」は、ホスティング、IP電話、VPNといった中小企業のIT化を支援する良質のビジネスプランも充実している。これから社内のIT化に取り組みたい、あるいはIT化を今以上に推進させたい中小企業にとって、ビジネスぷららは手軽に始められる最良の選択肢だといえる。

スモールスタート型IT投資に最適なホスティングサービス

ビジネスぷららのホスティングサービス「MultiStage」は、ぷららが中小企業ユーザー向けに提供する共用サーバーサービスだ。月額3,150円(ディスク容量100MB)からという利用しやすい料金設定は、ウェブサイトによる情報発信と自社用メールアドレス(アカウントは無制限)の取得といったスモールスタート型のIT投資に適している。とはいえ、定型CGIや独自CGIの設置、ウェブメール、迷惑メール受信拒否など、標準メニューの充実度はかなりなものだ。加えて、「固定IPオプション(初期費用なし/月額1,575円)」「SSL証明書オプション(初期費用

8,400円/月額無料/認証局の申請費用は別途必要)なども用意されている。

また、MultiStageではGUI形式のコントロールパネルを用意することで、専任のネットワーク管理者を置けない中小企業ユーザーでもアカウントの作成や定型CGIのインストール、アクセスログの管理など、権限に応じた各種の設定が行えるように配慮されている。

IP電話とインターネットVPNで通信コストを大幅削減

もうワンランク上のIT投資を検討している企業に最適なメニュー「ビジネスぷららフォン for フレッツ マルチプラン」と「ぷららVPNパック」もおすすだ。

ビジネスぷららフォン for フレッツ マルチプランは、1契約のプロードバンド回線で最大12チャンネル(ADSLは4チャンネル)の音声通話を可能にするIP電話サービスだ。IP電話は、同一あるいは提携プロバイダーのIP電話との通話が無料で、国内、国際、携帯電話との通話料が格安になるなど、企業における通信コスト削減の切り札として普及が進んでいる。ビジネスぷららフォン for フレッツ マルチプランも既存の電話設備のままで、電話などの通信コストの大幅な削減を可能にする。機器や設定・保守までをワンストップで提供して、従来型のビジネスホン同様の使い勝手を実現している。

一方のぷららVPNパックは、インターネットを利用して構築するVPNサービスだ。専用線を利用する方式に比べてはるかに低コストでプライベートネットワークを構築できる。また、通信の内容を暗号化してやり取りするため、データの機密性は十分保たれているので安心だ。そのうえ、「インターネット接続」「VPN機器レンタル」「保守運用」をオールインワンのパッケージにしたサービスとして提供しており、企業側は機器などの資産や専任のネットワーク技術者を持つ必要がなく、身軽な体制での運用が可能となる。

MultiStageの利用料金

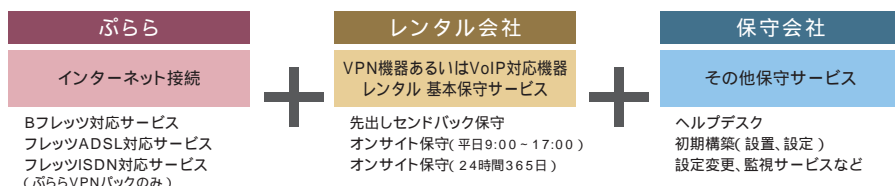
	基本メニュー料金	ビジネスパックの割引適用後の料金			
		スタンダード 2	スタンダード プラス 3	プレミアム 4	プレミアム プラス 5
月額料金	1 3,150円	2,835円	1,890円	2,205円	1,575円
初期費用	1	5,250円			

- 2004年12月1日から2005年2月28日までにMultiStage基本サービスの利用を開始すると、基本サービス及び有料オプションサービスの初期費用が無料、月額料金が最大3か月(SSL証明書は最大5か月)無料になるキャンペーンを実施中
- インターネット接続サービスを同時に利用している場合のMultiStageの料金
- インターネット接続サービスと、「ビジネスぷららフォン for フレッツ レギュラープラン」または「ビジネスぷららTVフォン」を利用し、最低通話料金が2,000円発生している場合のMultiStageの料金
- インターネット接続サービスと独自ドメイン登録管理サービスを同時に利用している場合のMultiStageの料金
- インターネット接続サービスと独自ドメイン登録管理サービスに加え、「ビジネスぷららフォン for フレッツ レギュラープラン」または「ビジネスぷららTVフォン」を利用し、最低通話料金が2,000円発生している場合のMultiStageの料金

ビジネスぷららフォン for フレッツ マルチプランの利用料金

	初期費用	月額料金	備考
基本料金	525円	378円	1電話番号2チャンネル
チャンネル追加料金	1,050円/工事	189円	1チャンネル追加ごと

ぷららVPNパックサービス/ビジネスぷららフォン for フレッツ マルチプラン



問い合わせ先
株式会社ぷららネットワークス
TEL 009192-123
houjin@plala.co.jp
(土日祝日を除く10:00~18:00)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp